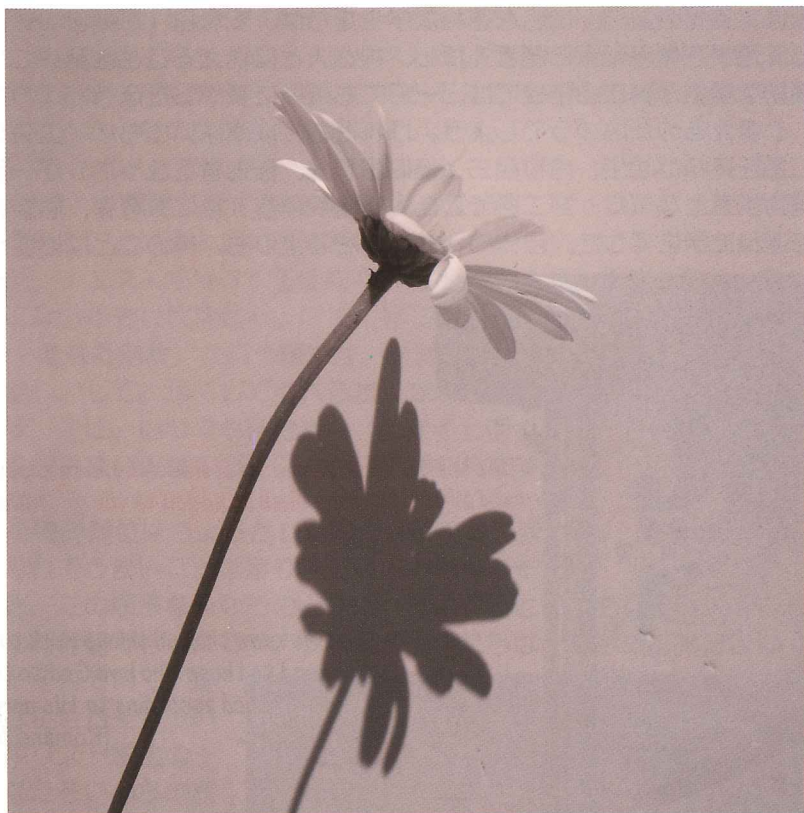


JOY

Jesus, Others & Yourself

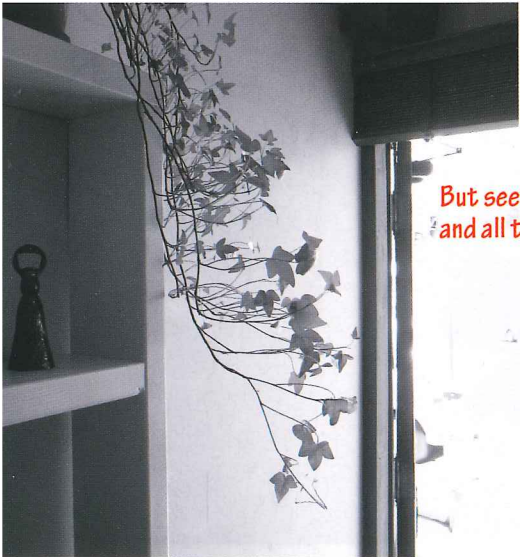
人生のパラドックス



人生を喜んで歩んでいきたい。
だからこそ健康第一、家庭第一、お金第一、等々、
わたくし第一に考えていくのがふつうのことでしょう。
けれども、人生の本当の喜び（英語でJOY）は、
パラドックス（逆説）にある、と言われたらどうでしょう。
この機会に、一度考えてみたいのです。
マザー・テレサがかつて日本を訪れた際のこと。
国事に奔走し多忙極める国会議員を前に、
「毎朝の30分を祈りと黙想に用いてほしい。
そうすれば、きっと良い政治ができます」と語りました。
どれだけの議員が応答したでしょう。
超多忙なスケジュールのなかでこそ、
静まって我と我が事を忘れてから、
国のため、民のために仕えろとしたら、
どれほど良い国ができることでしょうか。

JESUS, First

札幌農学校（現・北海道大学）の学生たちが行なったこと。クラーク博士が起草した「イエスを信する者の誓約」に名を連ねた学生たちは、安息日（日曜日の礼拝日）を聖なる日として勉学を休み聖書に聴き礼拝し、神と人ともに仕えることを第一にしました。全国から優秀な学生が集まる学校では、一日でも勉強に費やしたほうが「わたくしのためになる」と考えるのがふつうでしょう。けれども、成績はいつも「イエスを信する者の誓約」に名を連ねた学生、内村鑑三（後に思想家、伝道者となった）が一番、宮部金吾（後に植物学者となった）が二番でした。新渡戸稲造（後に教育者、思想家）もこの誓約に名を連ねた学生でした。目先の利益を求めるよりも、神のことばに従ったのです。



*But seek first the kingdom of God and His righteousness,
and all these things shall be added to you. (Matthew 6:33)*

*And we know that all things work together
for good to those who love God, to those
who are called according to His purpose.
(Romans 8:28)*

北米アメリカ開拓史で実際に起きたこと。信仰の自由を求めて英国からメイフラワー号に乗って北米大陸の東海岸に上陸したピルグリム・ファーザーズ（清教徒）。苦難に満ちた開拓経験はよく知られていますが、彼らがただがむしゃらに進んでいったのではなく、人生の優先順位をかたくなに守って開拓を前進させていったことはご存じだったでしょうか。東海岸に到着したのは1620年の11月下旬。沖合に船を停泊させながら屈強な男たちが浅瀬を渡り、開拓地を切り開いていきました。寒さが増し加わり、すぐにも冬が迫るなかで一分一秒でも惜しまず働くべき状況でした。けれども彼らは日曜日には仕事を休み、礼拝と安息の時を守り、前進していきました。「時」において「わたくしファースト」にしませんでした。

その後の開拓史でも、西海岸に埋まる黄金を求めて奔走した男たちは休むことなく旅を続け、運良く金を掘り当てたものの、自分の欲望第一の生き方を省みず、ことごとく身を滅ぼしたと言われています。現代の私たちの金銭感覚も似ています。世の常識は、「まず自分のために」、そして、余ったら「ちょっと施しに」くらいのものでしょうか。

And whoever of you desires to be first shall be slave of all.
For even the Son of Man did not come to be served but to serve,
and to give His life a ransom for many. (Mark 10:44-45)

私たちの人生の本当の喜び（JOY）は、パラドックス（逆説）にあります。マザー・テレサが、内村鑑三が、ピルグリム・ファーズが、彼らの人生を通して証しています。そして、歴史上誰よりもイエス・キリストというの方が、パラドックスのみごとなる証人なのです。すべてを失う十字架にいのちを捨てましたが、復活とともに数えきれぬ多くの人々に、いのちの喜びを与え続けています。

キーワードは「JOY」です。第一にJ（Jesus：イエス・キリスト）、第二にO（Others：他者）、第三にY（Yourself：あなた自身）で、JOY。このように生きる「喜び」が来る、という人生の優先順位です。つまりジーザス（Jesus）・ファーストです。まだ、イエス・キリストを知らないあなたに「ジーザス・ファースト」と言ってもピンとこないかもしれません。でも、第二にO（Others：他者）、第三にY（Yourself：あなた自身）という順序は、意外と当たっているとわかるはずです。自分のことを後回しにして、尽くしてくれる友人がいて、うれしいものです。逆に、いつでも自分本位（わたくしファースト）で他者を顧みない人はエゴイストとして嫌われます。

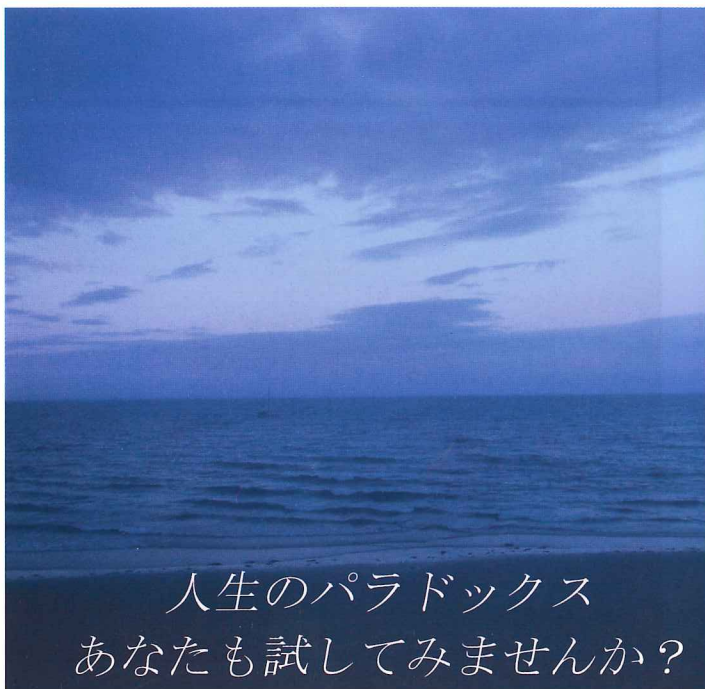
JOY
Jesus, Others & Yourself

このJOYの優先順位はちょっとした処世訓ではありません。人に気に入られてうまいこと世渡りするためのものでもありません。心底、この順番をあなたの人生にしていくことで、あなたは人生そのものを、まったく新しく経験できるのです。クリスチャンたちは一番始めに神さまに、そして人々にささげ、それでいて、かえって豊かな生き方をしているのです。キリスト教会の十字架は、あなたをいのちの喜びへとまねく旗印として、今日もあなたが暮らす町なかに、かけられています。

人生のパラドックス、
あなたも試してみませんか。

“So which of those three do
you think was neighbor to him
who fell among the thieves?”
And he said,
“He who showed mercy on him.”
Then Jesus said to him,
“Go and do likewise.”
(Luke 10:36-37)

人生のパラドックス
あなたも試してみませんか？



あなたが本当の喜びに生きるために、
お近くのキリスト教会をご案内します

教会案内トラクト『JOY〜人生のパラドックス〜』

執筆者 下川友也（日高キリスト教会牧師）

発行日 二〇一七年一〇月一日

発行所 日本同盟基督教団

東京都渋谷区幡ヶ谷一―二十三―十四

発行者 広瀬 薫

編集者 日本同盟基督教団 伝道局伝道部

